

地方公演ご案内
文楽協会設立60周年記念

人形浄瑠璃

文楽

解説・字幕付き

義経千本桜 すしやの段



物語を語る「太夫」、情景を音で表現する「三味線」、
一体の人形を三人で遣う「人形」、この三業が一つとなって
舞台から客席へ感動をお届けする、
日本が世界に誇る伝統芸能です。

■上演予定演目

昼の部

午後一時三〇分開演 (標準開演時刻)

解説 (あらすじ)

よし つね せん ほん ざくら
義経千本桜

しい き
椎の木の段
すしやの段



すしやの段



すしやの段

夜の部

午後六時開演 (標準開演時刻)

解説 (あらすじ)

かつら がわ れん りのしがらみ
桂川連理柵

ろっ かく どう
六角堂の段
おび や
帯屋の段
みち ゆき おほろ かつらがわ
道行朧の桂川



帯屋の段



帯屋の段

■公演期間と地域

2023年

10月公演

カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
9/24	25	26	27	28	29	30
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

2023年9月29日(金)～10月18日(水)

近畿・中部・北陸・関東・東北・北海道の各方面

※申込締切：2022年10月28日(金)

2024年

3月公演

カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
2/25	26	27	28	29	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

2024年3月1日(金)～3月20日(火・祝)

九州・四国・中国・近畿・中部・関東の各方面

※申込締切：2022年11月25日(金)

■公演契約金

宿泊を伴う場合

◎平日 一日 3,630,000円(消費税込)
【消費税抜き本体価格 3,300,000円】

◎土日祝 一日 3,850,000円(消費税込)
【消費税抜き本体価格 3,500,000円】

大阪近郊で宿泊を伴わない場合

◎平日 一日 3,190,000円(消費税込)
【消費税抜き本体価格 2,900,000円】

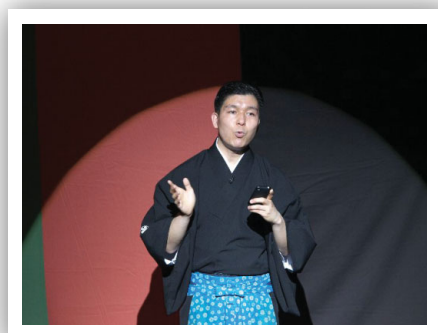
◎土日祝 一日 3,410,000円(消費税込)
【消費税抜き本体価格 3,100,000円】

○原則として一日二回公演(昼の部・夜の部)を前提とした公演契約金を表示しています。ただし、同じ演目を一日二回上演すること、昼の部と夜の部の演目を入れ替えて上演することはできません。また二日間や三日間続けて上演したいなど、変則的なパターンをご希望の場合はお気軽にご相談ください。

■経費負担区分(主な目安)

公演契約金に含まれるもの	公演契約金に含まれないもの
●出演料 ●大道具費 ●大道具人件費(舞台監督料を含む) ●交通費 ●宿泊費(宿泊を伴う地域のみ) ●輸送費(通行料も含む) ●照明プランナー費(1名) ●字幕機材および字幕オペレーター費 ●著作権使用料(広報用写真素材の支給も含む) ●出演者および帯同スタッフの食事 ●事務経費 ●消費税	●公演にかかる会館使用料・楽屋使用料、付帯設備使用料および備品借用料(舞台管理経費および増員経費も含む) ●現地照明費(ピン操作のできる技量の方を3名)※ ●搬出入補助経費(5～6名程度)※ ●本火使用等の所轄消防への禁止行為解除申請手続(使用時のみ) ●舞台上で使用する現地調達が必要な消え物(使用時のみ) ●音響経費 ●影アナウンス経費 ●広報および宣伝広告費 ●ケータリング費(出演者向けの簡単な茶菓の提供) ●主催者側スタッフ(現地手配スタッフも含む)の食事 ●券売および公演当日の表方の運営

※主催者様には現地照明係員3名、大道具の搬出入の手伝い5～6名をご手配いただきます。
それぞれの手配ならびに経費は主催者様のご負担となります。



出演者によるあらすじ解説



字幕付き上演



物販用プログラム

■公演を成功に導くために

字幕付き 上演となりました

- ご要望の多かった字幕を導入しており、お客様にもわかりやすいと好評です(会館の条件によっては技術上、お断りする場合があります)。
- チラシ・ポスターは文楽協会で作成したものを、実費でお分けすることができます。
- 館内広報にお使いいただけるDVDをご用意します。
- 文楽って難しい? そんなイメージが一気に払拭でき、券売にも効果的な事前レクチャーの開催が可能です(日程・料金別途要相談)。

■公演のお申し込み締切

【2023年10月公演】 締め切り/2022年10月28日(金)

【2024年 3月公演】 締め切り/2022年11月25日(金)

主催事業がまだ決まらない・・・締め切りに間に合わない場合や上記締め切り後でもお気軽にご相談ください。また、予定していた主催事業の急な変更など、スケジュールがうまく調整できればお受けできる場合も多々ございますので、まずはご相談ください。

■助成について

本ご案内「文楽地方公演」は芸術文化振興基金または文化芸術振興補助金による助成が採択された場合、全国画一の公演価格で文楽公演を提供することが可能となるものです。本ご案内については全国すべての会場における文楽公演について、一つの助成活動とした上で、助成を文楽協会が申請する予定です。従いまして、各会館様、財団様におかれましては、同種助成金(音楽堂活性化等)・文化庁助成について申請をお考えの場合に、文楽公演部分については重複申請とならないよう特にご留意ください。

■劇場機構条件

※一例ですので、条件に満たない場合はお気軽にご相談ください

- 舞台間口…8間以上(プロセキア間口で)
- 舞台奥行…4間以上(どん帳から)
- 舞台袖…1間半(上手・下手ともに)
- 吊り物パトン…4本程度(どん帳線より2間下がったところから舞台奥へ)
- 貴館所有の平台と箱馬の数と寸法をお知らせください(間口8間、奥行2間、高さ1尺くらいの二重舞台を組める平台・箱馬が必要です)
- 太夫台を上手客席に張り出します(どん帳ギリから高さ2.1尺、奥行5尺で長さ21尺の台を持ち込みます)ので、その分客席がつぶれることになります。
- 基本的に乗り打ちとなります。夜の部の上演終了から片付け・撤収には2時間程度必要です。
- 4トントラック二台が駐車できるスペースが必要です。

新型コロナウイルス感染症の拡大状況及び助成の採択状況により公演の開催を中止する場合がございます。

■お問い合わせ・お申し込み先

別紙(送り状裏)「文楽公演申込書」にてお申し込みください。舞台の平面図・側面図・照明設備図・客席図・楽屋図をご同封ください。

〈ご送付・お問い合わせ先〉

公益財団法人文楽協会

〒542-0073 大阪市中央区日本橋 1-12-10
TEL 06-6211-1350 FAX 06-6211-3609
地方公演担当 水落 学(みずおち)
e-mail: mizuochi@bunraku.or.jp

◇義経千本桜

椎の木の段・すしやの段

平家は滅亡。しかし、その嫡流、平重盛の子の維盛は生きていて、高野山へ入ったとの噂。京郊外に身を隠していた御台所は幼子を連れて高野山をめざし、偶然にも吉野で夫と再会。維盛は、かつて重盛に恩を受けた鮎屋の弥左衛門に匿われ、奉公人に身をやつしていました。

とは知らずに愛し、夫婦になるつもりでいたのが、この家の娘お里。思いもよらない現実が明らかとなり、こらえられない涙。

一方、兄の権太は、ゆすり、かたりも日常茶飯事の悪党。鎌倉から詮議にきた梶原景時に、討ち取った維盛の首と、捕らえた御台所、若君を差し出し、褒美の金を要求。忠義をほめ、梶原が去るや、激怒して、息子を刺す弥左衛門。

ところが、維盛一家は無事。首は維盛ではなく、連行されたのは権太の妻子でした。維盛の存在とその

危機に気づき、これを機に心を入れ替えようと一念発起した権太。大きな犠牲を払って、みごとに梶原をだまし、維盛を救うことができた——と思いきや、昔、重盛に命を助けられた頼朝には維盛を殺す気などなく、出家させるのが望みで、梶原は偽首と知りつつ受け取っていたことが判明。だまされていたのは自分の方だった…権太は、今こうして命を落とすのも、これまでのかたりの報いと悟って、悪事を悔い、絶命。維盛は、^{もとどり}髻を切り、妻子と別れて高野山へ…。

並木千柳・竹田出雲(二代目)・三好松洛合作、浄瑠璃三大傑作の一つに数えられる五段続きの時代物で、延享4年(1747)、人形浄瑠璃全盛期に大坂の竹本座で初演されました。『平家物語』の中の、都に残した妻子を恋い慕いつつ、戦場を去って高野山で剃髪、那智の沖で入水した維盛の物語を題材として、奈良県吉野郡下市町の老舗「つるべすし弥助」を舞台に一家の悲劇を描き、愛しい妻子を犠牲にした権太の悲しみが胸に迫る三段目をお届けいたします。

◇桂川連理柵

六角堂の段・帯屋の段・道行籠の桂川

帯屋長右衛門は、24歳も年下の隣家の娘お半と関係——旅先で、夜中、いやらしい丁稚から逃げて来たお半を、まだ子供だと思って自身の蒲団の中で寝かせてやったのが、間違いのもと。しかも、お半は妊娠。恩のある隣家、妻にはもちろん養父にも顔向けできない、取り返しのつかない過ちに、自らを責め、苦しむ長右衛門。それに対し、お半は、妊娠に悩みながらも、小さいときから大好きだった長右衛門以外、夫を持つ気などないとのこと。

このスキャンダルを利用して、長右衛門を店から追い出そうと企むのが、養父の後妻とその連れ子。店の金をくすねて、罪を長右衛門になすりつけ、旅先での関係を記した長右衛門宛のお半の手紙を読み上げて、長右衛門を窮地に。

それを救ったのは妻と養父。けれども、長右衛門がお半のことを苦にして自害するのではないかと、不安でなりません。どうか死なないでほしい、二人の切なる

願いを聞けば聞くほど、辛さが増す長右衛門。死んで詫びるほかない問題をさらにもう一つ抱えて、すでに死を覚悟していたのです。

この恋を思い切る、そう伝えて去ったお半が残したものは、桂川に身投げするとの手紙。15年前、桂川で芸子と心中するつもりでいながら、芸子の身投げ後、気が変わって死ぬのをやめた長右衛門は、芸子がお半に生まれ変わって死へと招くように思われ、桂川へ…。

菅専助による上下二巻の世話物で、安永5年(1776)に大坂の北堀江市ノ側の芝居で初演。題材は、1761年に京都の桂川で年齢差のある男女の死体が見つかった事件で、真相は不明ですが、一月後に心中として人形浄瑠璃化され、その後、宮園節の歌謡になり流行しました。

ご覧いただく下巻のうち、「帯屋」では、後半の養父、妻、長右衛門それぞれの思いやりに満ちた真情吐露が聞きどころ。後妻親子が派手に動く前半の丁稚との抱腹絶倒のやりとりも、ぜひお楽しみください。道行は、原作ではなく、のちに宮園節から取り入れたものです。

2022年9月

各 位

公益財団法人文楽協会

大阪市中央区日本橋 1-12-10

TEL 06-6211-1350

FAX 06-6211-3609

拝 啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、(公財)文楽協会では全国の皆様方に、わが国の代表的な芸能「文楽」を身近に鑑賞していただくために、(独)日本芸術文化振興会の助成を得て、毎年10月と3月に「文楽地方公演」を実施しております。

皆様のお力添えを持ちまして、当協会は2023年に設立60周年の節目を迎えることになりました。2023年度文楽地方公演は「文楽協会設立60周年記念」と銘打ち、次にご案内いたします馴染み深い演目で全国各地を巡演してまいります。

文楽協会設立60周年記念

よし つね せん ぼん さくら
〈昼の部〉 義経千本桜
しい き
椎の木の段／すしやの段

かつら がわ れん り の し が ら み
〈夜の部〉 桂川連理柵
ろっ かく どう おび や みち ゆき おぼろ かつら がわ
六角堂の段／帯屋の段／道行朧の桂川

日頃、文楽に親しんでいただく機会の少ない多くのお客様から「浄瑠璃を聞きたい」、「まるで生きているような人形を見てみたい」というお声をたくさんいただいております。

この機会に太夫・三味線・人形三位一体で醸し出す「文楽」のすばらしさをより一層楽しんでいただけますよう、技芸員をはじめ文楽協会一同努めてまいり所存でございます。

日頃から「文楽」に深いご理解と温かいご支援をいただいておりますことに、改めてお礼申し上げますとともに、日本が世界に誇ります伝統芸能「文楽」を、どうぞご当地で開催していただきますよう、心からお願い申し上げます。

敬 具

2023年度 文楽公演申し込み書

※お申し込み締め切り：2023年10月公演は2022年10月28日
2024年 3月公演は2022年11月25日

公演希望日

公 演 月	順位	希 望 日	公演回数	備 考
10月公演	第1	月 日 ()		①公演期日は9月29日～10月18日を予定 ②公演回数は原則として昼・夜2回
	第2	月 日 ()		
	第3	月 日 ()		
3月公演	第1	月 日 ()		①公演期日は3月1日～3月20日を予定 ②公演回数は原則として昼・夜2回
	第2	月 日 ()		
	第3	月 日 ()		

☆全国各地区を順を追って公演しますので、希望日は参考とさせていただき改めて日程調整をさせていただきます。
また土曜日・日曜日・祝日はご希望が多いため要望に添えない場合があります。

公演会場

名 称				
所 在 地	〒 (-)			
連 絡 先	電 話		FAX	

添付資料 (添付の場合は○印をつけて下さい)

図 面	有・無	備 考
舞台平面図		
舞台側面図		
照明設備図		
客 席 図		
楽 屋 図		

平台・箱馬数

平台	寸 法	台 数
箱 馬		

主 催 者

ふりがな		ふりがな	
名 称		担当者	
課 ・ 係等		E-mail	
電話・FAX			
ふりがな			
所 在 地			

お申し込み月日

年	月	日
---	---	---